

NEWS LETTER

2021年11月26日

一般財団法人岩手経済研究所

2021年冬季 岩手県内ボーナス調査について

一般財団法人岩手経済研究所（理事長：高橋真裕）は、定例の「2021年冬季岩手県内ボーナス調査」を実施しました。

本調査の概要は以下のとおりです。

2021年冬季ボーナスの増減予想

「増加」	12.4%	（前年調査比	2.4ポイント増）
「前年並み」	58.0%	（	7.0ポイント増）
「減少」	28.3%	（	6.8ポイント減）
「支給なし」	1.3%	（	2.7ポイント減）

（注）1. 2年連続で支給がない回答者を除く構成比

2. 「増加」は新卒者など前年の支給がなかった場合を含む

3. 「支給なし」は前年に支給があったが、今年の実支給がない場合を指す

本調査の内容は別紙「2021年冬季岩手県内ボーナス調査」のとおりです。また、詳しくは11月30日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 2021年12月号(No.469)」にも掲載いたします。

2021年11月26日

2021年冬季岩手県内ボーナス調査

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
岩手銀行中ノ橋支店3階
一般財団法人 岩手経済研究所
理事長 高橋 真裕
(担当 地域経済調査部 阿部 瑛子)
TEL 019-622-1212

< 調査要領 >

1. 調査内容

県内の給与所得者における 2021 年冬季ボーナスの支給見通しや用途など

2. 調査時期

2021 年 10 月

3. 調査対象者

県内の給与所得者

4. 調査方法

直接配布、郵送回答

5. 回答者数

245 人 (配布部数 696 部 回収率 35.2%)

6. 回答者属性

		回答者数	構成比	平均年齢
		人	%	歳
全 体		245	100.0	42.7
性 別	男 性	135	55.1	41.9
	女 性	110	44.9	43.8
職 業 別	民間(会社員)	177	72.2	43.3
	公 務 員	68	27.8	41.3
独 身・ 既 婚 別	独 身	64	26.1	37.0
	既 婚	181	73.9	44.8
年 齢 階 級 別	30 歳 未 満	46	18.8	-
	30 歳 台	42	17.1	-
	40 歳 台	86	35.1	-
	50 歳 台	56	22.9	-
	60 歳 以 上	15	6.1	-

＜ 調査結果の要約 ＞

1. 冬季ボーナスアンケート調査

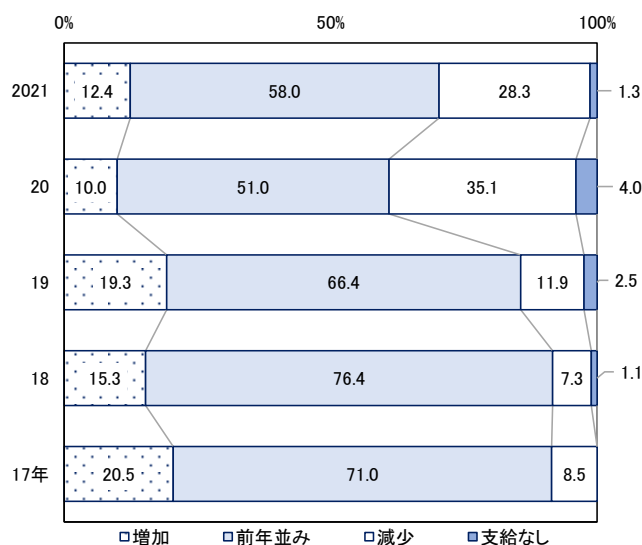
(1) 冬季ボーナスの受取予想 — 厳しい見通しが続く —

2021年冬季ボーナスの受取予想は「前年並み」の支給があるとする回答が58.0%（前年調査比7.0ポイント（以下、p）増）で最も多く、次いで「減少」が28.3%（同6.8p減）、「増加」が12.4%（同2.4p増）、「支給なし（※前年は支給あり）」が1.3%（同2.7p減）となった（図表1）。

職業別にみると、民間（会社員）は「前年並み」と「増加」が上昇した一方、「減少」と「支給なし」が低下しており前年に比べ厳しさは和らいだものの、「減少」は依然として4分の1を占め、新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）の感染拡大などによる業況の厳しさが窺える（次ページ図表2）。

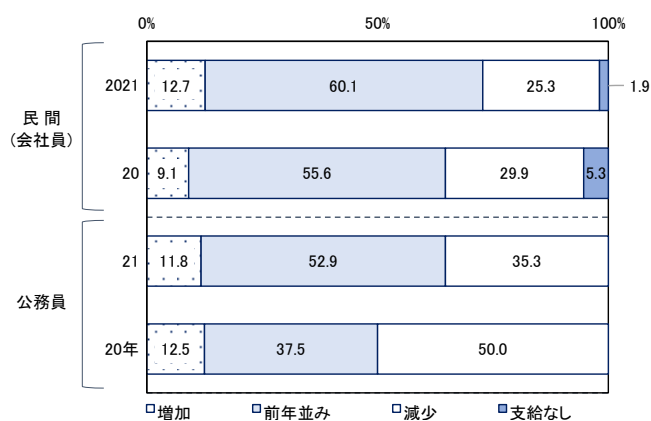
また、公務員は3分の1以上が「減少」を予想する結果となり、これは8月の人事院勧告で国家公務員のボーナス支給率（月数）が引き下げられたほか県職員の支給率も同様に引き下げとなった（調査期間中の10月中旬に勧告）ためと考えられる。

図表1 冬季ボーナスの増減予想（全体、2017～21年）



- (注) 1. 2年連続で支給がない回答者を除く構成比
 2. 「増加」は新卒者など前年の支給がなかった場合を含む

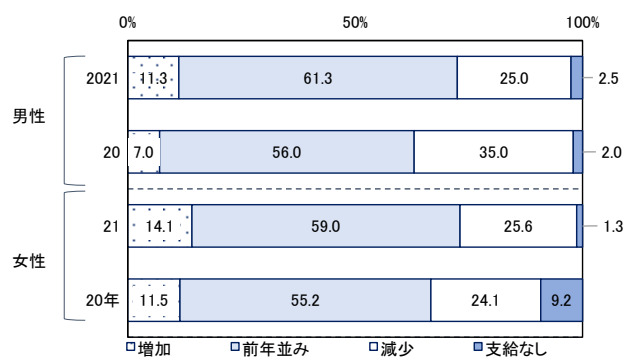
図表 2 冬季ボーナスの増減予想（職業別、2020、21年）



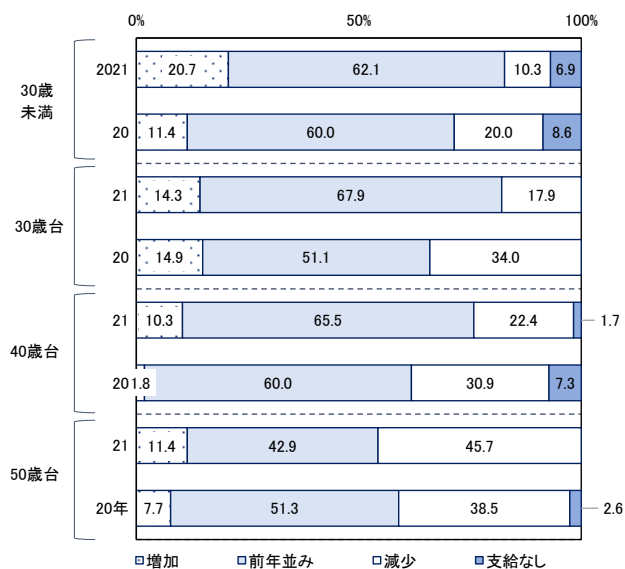
(注) 1. 2年連続で支給がない回答者を除く構成比
 2. 「増加」は新卒者など前年の支給がなかった場合を含む

参考 民間・冬季ボーナスの増減予想（性別・年齢階級別、2020、21年）

■ 性別



■ 年齢階級別



(注) 1. 2年連続で支給がない回答者を除く構成比
 2. 「増加」は新卒者など前年の支給がなかった場合を含む
 3. 60歳以上は回答者が少ないため省略する
 4. 四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある

(2) 使途 — レジャー、外食などは引き続き慎重な姿勢 —

ボーナス支給があると予想した回答者（民間、公務員）にその使途を「消費」「返済」「貯蓄・投資」に金額ベースで分配してもらった。

これによると全体では「貯蓄・投資」が 44.9%（前年調査比 0.2 p 増）で最も多く、次いで「消費」が 34.6%（同 1.3 p 減）、「返済」が 20.5%（同 1.1 p 増）となった（図表 3）。

「消費」では、「レジャー」が横ばいとなり「交際費」は微減となった一方、「買い物」が上昇しており、新型コロナの感染状況は落ち着いてきているものの旅行や外食などを控える動きが継続しているとみられ、在宅時間の増加を踏まえた消費を見込んでいるものと考えられる。

図表 3 冬季ボーナスの使途

単位：%、p

	全体			性別				独身・既婚別			
	前年比	△	※参考	男性		女性		独身		既婚	
			(21年夏季)	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比			
消費 ↘	34.6	△ 1.3	(34.0)	35.8	△ 1.1	32.4	△ 1.7	30.7	△ 1.0	35.8	△ 1.4
買い物	14.4	1.1	(12.4)	15.0	1.3	13.3	0.7	15.7	1.5	14.0	1.0
レジャー	2.7	0.0	(1.9)	2.9	△ 0.1	2.4	0.3	4.0	△ 0.3	2.3	0.1
交際費	2.7	△ 0.4	(1.7)	3.1	0.1	2.0	△ 1.3	3.4	△ 0.7	2.5	△ 0.3
教育費	5.9	△ 1.6	(10.2)	6.3	△ 1.5	5.2	△ 1.7	0.9	△ 0.9	7.5	△ 1.6
その他	8.9	△ 0.5	(7.7)	8.5	△ 0.9	9.5	0.3	6.8	△ 0.4	9.5	△ 0.5
返済 ↗	20.5	1.1	(18.5)	22.5	△ 1.2	17.1	5.9	13.2	△ 2.9	22.8	2.5
住宅	10.0	1.8	(8.5)	11.7	0.1	7.2	5.6	2.7	1.0	12.3	2.2
自動車	3.5	0.4	(3.1)	4.2	0.8	2.5	0.0	6.3	3.3	2.7	△ 0.4
教育	0.8	△ 0.7	(0.5)	0.4	△ 0.8	1.5	△ 0.5	0.0	△ 0.1	1.0	△ 0.9
クレジット	3.7	△ 0.1	(4.1)	3.8	△ 0.4	3.7	0.5	3.6	△ 3.3	3.8	0.9
その他	2.4	△ 0.4	(2.3)	2.5	△ 0.9	2.2	0.4	0.6	△ 3.8	2.9	0.6
貯蓄・投資 ↗	44.9	0.2	(47.5)	41.7	2.4	50.5	△ 4.3	56.1	3.9	41.4	△ 1.1

- (注) 1. 回答者の支給予想額の合計を 100%とした構成比
2. 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

2. 冬季ボーナス支給総額推計 —支給総額はマイナス予想—

当研究所では県の「毎月勤労統計調査」などの各種統計を基に2021年冬季ボーナス支給総額の推計を行った。

推計の結果、民間と公務員を合わせた支給総額は1,191億8,000万円で前年比4.8%減の見通しとなった(図表4、5)。

民間は同4.0%減となった。雇用者数は微増となったものの、支給率などが低下する見通しであり、全体では2年連続の減少が予想される。

また、公務員も同7.1%減と国家公務員および県職員の支給率(月数)がマイナスとなったことなどから減少が見込まれる。

年間支給総額についても21年は民間、公務員を合わせると夏季(前年比5.9%減)、冬季(同4.8%減)ともマイナス予想となったため前年比5.3%減となった。

図表4 冬季ボーナス支給総額の推計結果

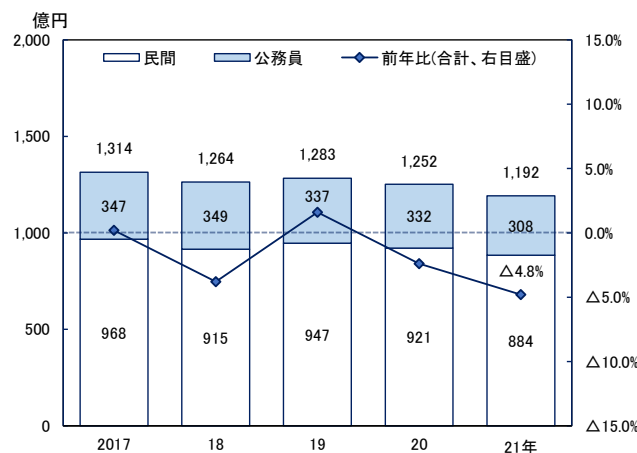
単位:百万円、%

	合 計		
	民間	公務員	
2021	119,180	88,389	30,791
前年比	△ 4.8	△ 4.0	△ 7.1
20	125,231	92,076	33,155
前年比	△ 2.4	△ 2.7	△ 1.5
19	128,342	94,679	33,663
前年比	1.6	3.4	△ 3.4

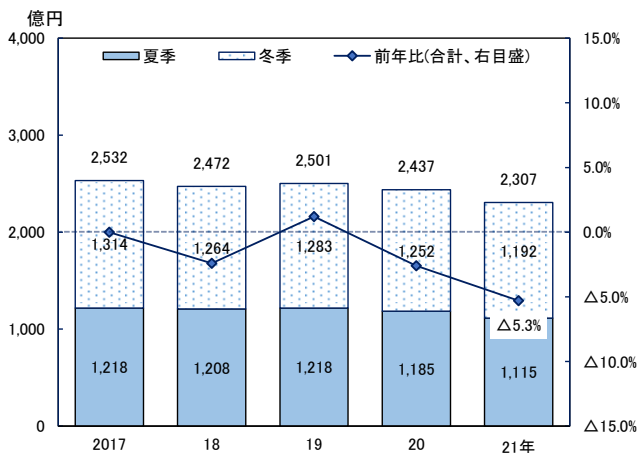
(注) 経年分は推計に用いる指標の更新等に伴い再計算した

図表5 ボーナス支給総額推計の推移(2017~21年)

■ 冬季支給総額(民間+公務員)



■ 年間支給総額(全体、夏季+冬季)



(注) 1. 経年分は推計に用いる指標の更新等に伴い再計算した
2. 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある